

平成30年8月20日（月）
平成30年度第二学期始業式 式辞

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

生命の歴史に思いを馳せ、未来に羽ばたく力を

地球科学の知見によれば、138億年前に宇宙が生まれ、約46億年前に地球が誕生、その6億年後の約40億年前に生物が誕生しています。地球はこれから50億年以上、太陽系の惑星として存在し続けますが、生物は今から10億年後には、太陽の膨張によって地球の気温は上昇、海は消滅し、もはや存在できないとされています。地球の歴史は100億年、生物の歴史は50億年なのです。私たちがヒトとして生きている現在は、地球上の生命の歴史のだいたい5分の4が終わった時点となります。

そして、地球の誕生からずいぶんと時間がたって、およそ700万年前に人類は誕生します。約1万7000年前にホモ・フロレシエンスが絶滅、とうとう地球上の人類は、ホモ・サピエンス1種だけになってしまいました。地球の歴史に比べ、人間はつい最近現れた、新しい生き物と言えます。

火山活動が活発になり、太陽の光と熱がさえぎられ、地球全体が寒くなり生物の大量絶滅が起きた古生代ペルム紀（約2億9,900万年前から約2億5,100万年前まで）、地球への小天体の衝突による寒冷化によって、恐竜がほとんど絶滅した中生代白亜紀（約1億4500万年前から6600万年前まで）。生命は幾度かの大量絶滅に見舞われながらも、私たちの祖先は40億年もの間、過酷な環境にも適応し続け、ただの一度も途切れることなく細胞分裂を繰り返してきてきました。その結果、今私たちが存在しています。はるか果てしない時間の中で、多様な生物が生まれ、地球の環境は豊かになりました。私たちが生きている社会も、宇宙、地球、生物の誕生という途方もない時間感覚の中で捉えることができます。

分子古生物学者である ^{さらしな いさお}更科 功 氏は、次のように述べています。

「ヒトが絶滅しても、何事もなかったように地球上では生物が進化していく。太陽系が消滅しても、何事もなかったように、宇宙は存在し続ける。そしてこの宇宙が消滅しても、何事もなかったように、他の宇宙は存在し続け、別の宇宙も生まれてくる。時間と空間を超越した、眼もくらむような果てしない物語の中で、一瞬だけ輝く生命…それが私たちの本当の姿なのだろう。」

絵本作家バージニア・リー・パートンは、『せいめいのれきし』の最後で語ります。

「そして、いまは夜明け——

あたらしい日、春のある1日の夜明けです。

1分ごとに、東の空があかるくなり、光は、はい色から、

ふかい青に、そしてまた、あわいピンクにかわってきました。

太陽がもどってきたのをよろこんで、鳥たちは、にぎやかにうたいます。

すぐその、緑の草地には、うまれたばかりの子ヒツジがいます。

さあこれで、わたしのはなしはおわります。こんどはあなたがはなすばんです。窓の外をごらんください。じきに、太陽がのぼります。」

生命の壮大な歴史を概観することで、今を生きることの尊さを感じることができます。鳥の羽ばたきににあらがう空気は、飛翔を妨げるのではなく、かえって飛翔を助ける役割をします。本高生の誰もが、自分にとっての「空気」をよりよく生きる力に換え、「今ここ」の時間を充実して過ごし、未来に羽ばたく力とすることを願って、式辞とします。